

学校教育目標

自主の誇りを持ち、
未来を拓く力をもった生徒の育成

霞ヶ関中学校の歴史と未来を繋ぐ学校づくり



学校経営方針

生徒の思いや願いを実現するため、全教職員の創意工夫を生かし、信頼と総力を結集した能動的で活力ある学校・学年・学級経営を推進する

- ◎全教職員の信頼と協働（話す・聞く・理解する）を通し、日々の丁寧な指導を積み重ねる。
- ◎チームの活用による校務分掌の遂行により、学校運営への能動的な取組を推進する。
- ◎R（リサーチ）&V（ビジョン）・PDCAにより、計画的効果的な指導計画の作成と評価を実施する。
- ◎創意・誠意・熱意、そして迅速を基本とした学校運営を推進する。
- ◎学校改善の上昇スパイラル要因を、教師力（目指す教師像）、家庭・地域連携力（保護者、学校応援団おやじの会等）、ポジティブな学校文化力（学校行事、伝統、環境整備等）として捉え、全教職員の創意を活かし、熱意によって向上や推進を図る。



生徒・保護者・地域・教職員が誇れる、大好きな学校
自分の子どもを通わせたいと思う学校（生徒・保護者・地域への責任）



学校評価の充実・検証

R&V・PDCAの推進・自己評価とのリンク

教職員の特徴と力を活かした組織運営

- 実務型運営形態の実施
通常の校務分掌は活かしながら、校務の集中を避けOJTを推進する。
 1. 運営委員会
校長・教頭・教務主任・学年主任・生徒指導主任・研究部長
 2. プロジェクトチーム（MR制）
 - A. 学力向上（教育指導課指定）
 - B. 特別活動研究
 - C. 心の教育
 - D. 小中連携（学校管理課指定）
 - E. キャリア教育
 - F. 学校運営改善
 3. T F T（短期）
目標達成までの期間限定の担当チーム。CNは教頭・教務・研究部長。
- 分掌担当による「企画優先」の組織運営。担当（主任）＝企画・発信者
- 声と思いの届く学年・学校経営
☆報告・連絡・相談の徹底。相談を重視。
☆学年ではなく、学校としての「三年間」の積み上げの共通理解・共通行動。

計画的な教育活動の実施

- 準備期間を想定した活動の実施
四半期（三ヶ月）等を基準とした準備期間の設定。
 1. 三ヶ月前を原則とした準備計画の立案（運営委員会へは最低1ヶ月前提案）
 2. 学年・学級経営案とTo Doリストを活用し成功イメージ、達成目標の明確化と実践計画、評価計画を充実させる。
- 成果の検証と評価の速やかな実施
☆定期（学期ごと）不定期（行事ごと）の評価を実施し、速やかなフィードバックを行う体制の整備。（学校評価中心のPDCA）
- 前年度評価の活用
☆「前年踏襲」の撤廃。学校評価とR&Vにより、改善・変更・充実を図る。
- 職員会議60分の徹底
☆会議の持ち方、内容を工夫し、生徒と向き合う時間をより長く。資料の事前配付、早めの提案、チーム等を活用しての周到的提案により、スムーズな共通理解を図る。

学校力

結集

教師力

目指す教師像

教職への情熱を持った教師
（使命感・責任感
生徒への愛情）

豊かな力量を持ち、
学び続ける教師

豊かな人間性と総合的な人間力
（常識・対人関係調整力）を持った教師

自他に対して「霞ヶ関中の大切な一人」としての自覚と責任を持った教師

公正で誠実な勤務を行う教師

Kasumi Plan 30の推進

- ☆学力向上(A)・やる気と力を伸ばす指導の推進(B)・豊かな心の育成(C)・学校・家庭・地域の連携(D)・キャリア教育(志の教育)の充実(E)の5プロジェクトの推進とマンスリーレポートによる共有
- ☆全教職員の学校経営参画による新たな学校教育文化の形成と、学校運営改善PT(F)による、適切なワークライフバランスの中での最大の教育効果を目指す体制整備